

札幌駅交流拠点再整備構想案策定に係る市民意見等調査のまとめ（概略版）

1. 札幌駅交流拠点再整備構想案策定に係る市民意見等調査の流れ

市民アンケート調査	詳細は P11-14
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査期間:平成 22 年 1 月 8 日～2 月 20 日 ・ 調査方法:調査票の郵送 ・ 回収数:2,000 名発送、回答 498 名(回答率 24.9%) 	

市民検討会（ワークショップ）	詳細は P15-29
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日:平成 22 年 2 月 13 日・2 月 21 日 ・ 参加者数:27 名(年齢、区、性別が均等になるように無作為抽出) ・ テーマ:20 年後の札幌駅周辺地区のあるべき姿(主に自然、創造性、文化性、国際性) 	

道内・道外WEBアンケート調査	詳細は P30-38
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査期間:平成 22 年 9 月 29 日～10 月 1 日 ・ 調査方法:WEB 調査 ・ 回答数:道内 535 名、道外 522 名 	

一般的な
意見傾向
の把握

留学生・学生ワークショップ	詳細は P39-46
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日:平成 22 年 10 月 2 日・10 月 3 日 ・ 参加者数:合計 26 名(計 8 カ国) ・ 主なプログラム:都心のまち歩き、将来大切にすべき内容について議論 	

留学生・学生ワークショップ発表会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日:11 月 14 日(日) ・ 発表者:8 名(うち、留学生 2 名) ・ 参加者:33 名 ・ 主なプログラム:留学生・学生の代表者からの検討内容のプレゼン、質疑応答 	

将来にわたる利
用者から国際的
な意見やアイ
ディアを調査

事業者ヒアリング	詳細は P47-57
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査期間:平成 22 年 12 月 13 日～12 月 27 日 ・ 調査方法:面談によるヒアリング ・ 対象数:8 事業者(札幌駅周辺地区 6 事業者、その他都心地区から 2 事業者) 業種等:まちづくり関係者、小売・建設・不動産・IT・観光・ホテル・予備校関係 	

事業者の視点か
らの都心の活性
化に関する意見
を調査

2. 各調査結果の総括

一般的な意見傾向

市民アンケート調査結果

市民の関心の高さ

・回答率(24.5%)や自由回答記入率(79.5%)が高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対して市民の関心が高いことがわかる。

「将来重視すべき機能」について

・(主観的な考え)「商業機能」や「交通乗換機能」などの日常的な機能について重視している。

「イメージを高めるために必要なもの」について

・(客観的な考え)「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能を必要とする意見が多い。

特徴的な内容について

・普段市民が利用する機会の少ない「観光機能」に関する回答が比較的多いことが挙げられる。

市民検討会(ワークショップ)の実施結果

20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿として、重要な都市機能について

・「文化性」「自然」「国際性」「創造性」の順で重要度が高いとの結果が得られた。

「自然」について

・市民の親しみと憩いの場として緑のある広場を望む意見に対して評価が高かった。

「文化性」について

・一次産業の復活、食文化の発信、伝統的なイベントへの発展など、さっぽろらしさを守りながら新たな歴史や文化をつくっていくことが重要との意見傾向があった。

「国際性」について

・札幌ブランドの国際化、市民と外国人の相互理解の場が必要との意見傾向であった。

「創造性」について

・学ぶ場や発表の場といった環境づくりを進めて、市民の交流を促進すべきであるとの意見傾向が見られた。

全体の意見傾向

・イベントの発展や札幌ブランドの国際化といった札幌を外に向けてアピールしたいという気持ちや、市民と外国人の相互理解や市民の交流を促進といった市外と市内の人の交流促進に関心があることがわかる。

道内・道外WEBアンケート調査結果

「将来重視すべき機能」について

・(共通点)「商業機能」や「交通乗換機能」といった利便性の向上を求める回答が最も多い。

・(相違点)次いで多い機能について、道内は「観光案内機能」や「にぎわい機能」、道外は「文化機能」を求めている

「イメージを高めるために必要なもの」について

・(共通点)「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能が必要との回答が多い。特に道外は「広場」、「観光案内」、「景観」に回答が集中している。

札幌周辺地区がはたすべき役割

・(共通点)「目的地へ送り届ける役割」が最も重要で、次いで「市内・道内の情報を来訪者へ提供する役割」が重要との回答となった。

将来にわたる利用者から国際的な意見やアイデア

留学生・学生ワークショップの実施結果

将来大切にすべき内容(都心全体)

- ・ 国際都市を目指すには赤レンガや雪といった歴史・文化性を表現することが必要である。
- ・ 車から人を重視した都心にすべきである。段階的に車両乗り入れ規制を行ってはどうか。

将来大切にすべき内容(札幌駅周辺地区)

- ・ 札幌駅交流拠点は創成以東につなげる重要な場所である。緑や路面電車でネットワーク化してはどうか。
- ・ 交流の中心は大通、札幌駅から大通地区に人が流れるようにすることが大切である。
- ・ 札幌や北海道の情報発信をするべきである。観光案内の人材を育成すべきである。コンシェルジュなどにより気軽に相談しやすい環境をつくってはどうか。
- ・ 札幌駅で南北をつなげるようにすべきである。札幌駅の商業施設が南北の回遊の壁となっているのではないか。
- ・ 環境に配慮して、環境首都をPRすべきである。そのことが札幌の経済の活性化につながる。
- ・ 札幌駅はショッピングセンターであり、来訪者にはわかりにくい施設となっている。
- ・ バスターミナルをはじめとして、交通機関の乗降場所や行き先・ルートをわかりやすくすべき。

事業者の視点からの都心の活性化に関する意見を調査

事業者ヒアリングの実施結果

将来の札幌都心について

- ・ 札幌駅周辺地区は交通や商業機能が一体となった機能的な地区として発展させ、大通地区は独創的な店舗展開や街の奥深さを感じる創造的な展開を伸ばしていくことが望ましい。
- ・ 札幌都心のハブ機能や中心性を強化するためには、札幌駅の消費機能のみでは不足であるので、都心全体の魅力を向上させることが求められる。
- ・ 郊外型ショッピングセンターの利便性に勝り、札幌ファンを増やすためには、人とのコミュニケーションが促進されるソフト的な取組みが重要である。
- ・ 郊外への施策により、コンパクトシティを推進して札幌駅周辺地区と大通地区の2つの商業核を成立させることが求められる。

将来の札幌駅周辺地区について

- ・ 札幌駅の導入機能という面では、現状で十分だと感じる。来訪者のためにわかりやすくしたり、機能ごとのボリュームをコントロールするなどの再編集は必要である。
- ・ にぎわいのためには人を歩かせることが最も重要である。
- ・ 20、50年後の北海道や札幌の必要性は、現在の延長線上にない可能性がある。時代の変化を踏まえた検討が求められる。
- ・ 都心居住を推進するための装置が必要である。住居機能だけでなく、近隣の住居地区とのネットワーク化も重要である。
- ・ 新幹線札幌駅乗り入れ後の商業施設やホテルの自然増加を踏まえた計画が必要である。そのために、行政には民間の動きを察知してエリアマネジメントを推進させていくことが求められる。
- ・ 民間企業が国際的な競争に打ち勝つために、北海道大学の教育と研究の機能をフル活用すべきである。

3. 市民意見等調査結果から読み取れること

市民の一般的な意見傾向 市民アンケート・市民検討会	道内・道外の一般的な意見傾向 道内・道外 WEB アンケート	将来にわたる利用者から国際的な意見やアイデア 留学生・学生ワークショップ	事業者の視点の活性化への意見 事業者ヒアリング	配慮事項
<p>利便性の向上</p> <p>将来的に商業・交通機能を重視すべき</p>		<p>現在ショッピングセンターであり交通機能がわかりづらい 交通機関の乗降場所や行き先・ルートをわかりやすくすべき</p>	<p>機能ボリュームの再編集によりわかりやすくしては</p>	<p>商業施設との一体施設であることを考慮した交通結節点機能の再編集 (構想案 - 1)</p>
<p>来訪者を迎え入れる機能の強化</p> <p>広場・景観・観光機能といった来訪者を迎え入れる機能向上</p> <p>札幌ブランドの発信による国際性向上</p>		<p>人による観光機能の強化 北海道・札幌の発信をするべき</p>	<p>市内・道内の情報を来訪者へ提供する役割が重要</p>	<p>来訪者(道内外・海外)への北海道全体・札幌の情報発信 (構想案 - 2) 広場や景観形成による札幌らしさの表現 (構想案 - 3、- 5)</p>
<p>札幌らしい自然や文化の表現</p>		<p>札幌らしい自然や文化の表現による国際都市の実現</p>	<p>シンボルとしてイメージ作りが必要</p>	
<p>産業育成による経済活性化</p>		<p>環境首都のPRによる経済活性化</p>	<p>国際的競争に打ち勝つための北海道大学の教育・研究機能の活用</p>	<p>札幌駅の立地性を活かした産業育成 (構想案 - 2、- 5)</p>
<p>回遊性の向上と都心の一体的な発展</p> <p>来訪者を目的地へ送り届ける役割が重要</p>		<p>札幌駅の商業が回遊の壁となっている</p> <p>札幌駅の南北、大通地区との一体的な発展による都心活性化(商業と商業以外の魅力向上) 都心周辺の住居機能とのネットワーク化</p>		<p>目的地・周辺の機能とのアクセス・ネットワーク強化 (構想案 - 4)</p>
<p>人(交流・交通)を中心としたまちづくり 市民と来訪者(外国人含め)の交流を促進</p>		<p>車から人への交通環境の転換</p>	<p>コミュニケーション促進による都心の魅力向上</p> <p>協議の場を設けてエリアマネジメントを推進 新幹線乗り入れによる民間開発活性化を考慮した検討</p>	<p>人による活動や交流の展開の重視 (構想案 - 1、- 4)</p>

札幌駅交流拠点再整備構想案策定に係る市民意見等調査のまとめ（詳細版）

（１）市民アンケート調査結果のまとめ

- ・ 「重視すべき機能」に対する回答から、市民の多くは「商業機能」や「交通乗換機能」などの日常的な機能を重視していることがわかる。
- ・ その一方で、札幌駅周辺地区の「イメージを高める」ためには、「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能を必要とする意見が多い。
- ・ 自由回答では、来訪者を迎え入れる機能に関する回答が最も多く、次いで利便性に関する意見、観光・文化機能に関する意見が多い。
- ・ 「重視すべきもの」、「イメージを高めるために必要なもの」、「自由回答」の回答結果から特徴的な内容として、普段市民が利用する機会の少ない観光案内・情報展示施設などの「観光機能」に関する回答が比較的多いことが挙げられる。札幌市民にとっての観光に対する重要性・関心が高まってきていることがわかる。
- ・ 本調査はアンケート票の 2,000 人に郵送による調査であったが回答者数が 498 人（回答率 24.5%）と 4 人に 1 人が返送により回答している。さらに、設問「自由回答」の記載者数が全回答者 498 人のうち、396 人（記載率 79.5%）と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。
- ・ 本調査からわかった「札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さ」は、これまで札幌市が市政情報を積極的に提供して、市民の理解と関心を高めるために努めてきた結果が反映されているものと考えられる。

札幌市の情報公開度は「第 12 回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2007 年度）」で全国 3 位、「第 11 回情報公開度ランキング政令市総合ランキング（2006 年度）」で全国 1 位となっている（全国市民オンブズマン連絡会議発表）。

（２）市民検討会実施結果のまとめ

- ・ 第 1 回・第 2 回市民検討会ともに最も重要視されていた都市機能は、「自然」であった。
- ・ 第 1 回市民検討会の結果、将来発展させていきたい機能として「文化性」「国際性」「創造性」が挙げられた。
- ・ 第 2 回市民検討会では、第 1 回市民検討会の結果をもとに、「自然」「文化性」「国際性」「創造性」について中心に検討を行った。
- ・ その結果、20 年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿として、「文化性」「自然」「国際性」「創造性」の順で重要度が高いとの結果が得られた。
- ・ 「自然」については、市民の親しみと憩いの場として緑のある広場を望む意見に対して評価が高かった。
- ・ 「文化性」については、一次産業の復活、食文化の発信、伝統的なイベントへの発展など、さっぽろらしさを守りながら新たな歴史や文化をつくっていくことが重要との意見傾向があった。
- ・ 「国際性」については、札幌ブランドの国際化、市民と外国人の相互理解の場が必要との意見傾向であった。

- ・ 「創造性」については、学ぶ場や発表の場といった環境づくりを進めて、市民の交流を促進すべきであるとの意見傾向が見られた。
- ・ 全体の意見傾向としては、イベントの発展や札幌ブランドの国際化といった札幌を外に向けてアピールしたいという気持ちや、市民と外国人の相互理解や市民の交流を促進といった市外と市内の人の交流促進に関心があることがわかる。

市民検討会では、世界や日本全体といった広い視点から札幌駅と周辺地区を考えることに重点を置きプログラムを進めたため、市民からの意見は札幌駅周辺地区に限定されず、札幌都心全体を含めた議論であった。



市民検討会の様子



(3) 道内道外 WEB アンケート調査結果のまとめ

市民と道内・道外の意見傾向について、共通点及び相違点の視点で考察する。

「将来重視すべき機能」について

<共通点>

- ・ 3者共通して、「商業機能」は3割以上、「交通乗換機能」は2割以上が重要と回答している。

<相違点>

- ・ 「観光案内機能」が重要との回答は、道内・道外で2割以上であり、市内と比較して多い。特に道外の回答が37%と突出して多い。
- ・ 「文化機能」や「にぎわい機能」が重要との回答は、市内よりも道内・道外の方が多い。

「イメージを高めるために必要なもの」について

<共通点>

- ・ 「将来重視すべき機能」では「商業機能」や「交通乗換機能」の回答が多かったが、「イメージを高める」ためには3者共通して「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎える演出や機能を必要とする回答が多い。
- ・ 特に道外は「広場」、「観光案内」、「景観」に回答が集中しており、その他の項目は全て6%未満であった。
- ・ 道内は道外よりも「観光案内」が必要と回答していることも特徴的である。

<相違点>

- ・ 「商業施設」が重要との回答は、市内・道内で2割程度であったが道外では6%程度であり、市内・道内と道外で意見傾向が異なる。

「札幌周辺地区がはたすべき役割」について 道内・道外のみへの設問

- ・ 道内・道外ともに、「来訪者を目的地へ送り届ける役割」が最も重要で、次いで「市内・道内の情報を来訪者へ提供する役割」が重要との回答となった。この2つの項目については、特に道外の回答が多く、半数近くに上っている。
- ・ 「留めて時間消費をさせる役割」と「経由地としての役割」という相反する内容についても、道内・道外ともに2割以上と比較的多い。

(4) 留学生学生ワークショップ実施結果のまとめ

各グループで共通していた意見

<都心全体>

- ・ 国際都市を目指すには赤レンガや雪といった歴史・文化性を表現することが重要である。
- ・ 車から人を重視した都心にすべきである。

<札幌駅周辺地区>

- ・ 交流の中心は大通であるので、札幌駅から大通地区に人が流れるようにすることが大切である。札幌駅の商業施設が回遊の壁となっているのではないか。
- ・ 現在の札幌駅全体はショッピングセンターであり、はじめて来た人や観光客にわかりにくい。
- ・ バスターミナルをはじめとして、交通機関の乗降場所や行き先・ルートをわかりやすくするべき。
- ・ 札幌や北海道の情報発信を強化するべきである。

各グループでの特徴的な意見

<都心全体>

- ・ 札幌駅交流拠点は創成以東につなげる重要な場所である。緑や路面電車でネットワーク化してはどうか。
- ・ 大通公園は、イベントの拠点のようである。初めて見る外国人にとっては、仮設の小屋が景観的に良くない。
- ・ サッポロファクトリーや旧西武などは、札幌らしく歴史性を感じる施設である（赤レンガは、札幌らしい）。
- ・ 創成川は、良い空間になると思われるが、周りが建物に囲まれているのが残念である。
- ・ 車から人重視の都心にすべきである。30年先のビジョンを持って、車の乗り入れ規制や車の乗り入れ禁止などを段階的に行っていくべきである。
- ・ 札幌らしさを表現する上でも、「みどり」を増やすことが必要である。みどりは、都市空間との調和も重要な視点である。
- ・ 「雪」がきれいにみえる都心にすべきである。北海道は自然というイメージだが、札幌は雪のきれいな都会というイメージである。雪のきれいな都会は世界的に見ても少ない。
- ・ 路面電車は、行き先までのルートがわかりやすく、風景が楽しめるので、観光にも寄与するのではないか。車両デザインによっては景観形成への効果も期待できる。
- ・ 施設と公共空間を一体的に捉えて、魅力を線や面で創出していくべきである。

<札幌駅周辺地区>

- ・ 札幌駅は、（ショッピングセンターとなっており）海外の鉄道駅に比べ鉄道駅らしくない。
- ・ 札幌駅の観光案内所の所在が分かりにくい。改札口を出て一番分かりやすい場所にあるべき。
- ・ 観光案内の人材を育成すべきである。コンシェルジュなどにより気軽に相談しやすい環境をつくってはどうか。案内所には、事務的なスタッフを配置するだけでは不足である。
- ・ 環境に配慮して、環境首都をPRすべきである。そのことが札幌の経済の活性化につながる。
- ・ 札幌駅北口の広場がヒューマンスケールで親しみやすい。
- ・ 札幌駅南口は、周りに大きな建物があり、オーバースケールとなっている。タクシーベイやバスターミナルなどがあり、ごちゃごちゃしているようにも感じる。
- ・ バスターミナルの位置がわかりずらく、目的地までの行き方やそのルートもわからない。目的地までのルートを見えるようにすることが重要である。
- ・ 駅空間にふさわしい大きな広場を確保することが必要である。視界が開けることが大切である。
- ・ 女性が多い都市らしく、駅に教育施設や保育施設等を配置することも考えられる。



留学生・学生ワークショップの様子



留学生・学生による発表会の様子

（５）事業者ヒアリング実施結果のまとめ

各社で共通点の多い意見

<将来の札幌都心について>

- ・ 札幌駅周辺地区は交通や商業機能が一体となった機能的な地区として発展させ、大通地区は独自の店舗展開や街の奥深さを感じる創造的な展開を伸ばしていくことが望ましい。
- ・ 札幌都心の北海道におけるハブ機能や中心性を強化するためには、札幌駅の消費機能のみでは不足であるので、都心全体の魅力を向上させることが求められる。
- ・ 郊外型ショッピングセンターの利便性に勝り、札幌ファンを増やすためには、人とのコミュニケーションが増進されるソフト的な取組みが重要である。
- ・ 郊外への施策により、コンパクトシティを推進して札幌駅周辺地区と大通地区の2つの商業核を成立させることが求められる。
- ・ 市民のニーズにフィットしたまちづくりが必要である。例えば、競合店は、近接している方が市民ニーズにも応えられるし、実際売上も増加する。選択肢があるということが郊外店との差になるのではないかと。

<将来の札幌駅周辺地区について>

- ・ 本来札幌駅には、大通地区や道内各都市へ人を流す弁のような役割がある。
- ・ 札幌駅の導入機能という面では、現状で十分だと感じる。来訪者のためにわかりやすくしたり、機能ごとのボリュームをコントロールするなどの再編集は必要である。
- ・ 新幹線札幌駅乗り入れ後の商業施設やホテルの自然増加を踏まえた計画が必要である。
- ・ 新幹線札幌駅乗り入れにより、商業施設やホテルが増加することが予想される。行政には民間の動きを察知して協議の場を設けることにより、エリアマネジメントを推進させていくことが求められる。

各社の特徴的な意見

<将来の札幌都心について>

- ・ 都心には常に新たな魅力を創造することが求められている。
- ・ 都心の回遊性を高めるためには商業施設の供給過多を避けるため、商業施設以外の魅力が必要ではないか。
- ・ 札幌の観光に関しては市民一人一人がプロモーターになって札幌の魅力を発信することが重要である。札幌には藻岩山、羊ヶ丘展望台など素晴らしい観光名所があるのだが、市民自身が良くない評判を振りまいている。
- ・ 札幌の人材では、国際会議が開催できない。東京から通訳を確保しているのが現状である。雇用や教育に力を入れないと、語学堪能な若者は札幌で活躍の場がないため札幌の外へ出て行ってしまう。
- ・ 札幌駅前通を週末限定でよいので歩行者天国にしてはどうか。にぎわいのためには人を歩かせることが最も重要である。にぎわいがにぎわいを呼ぶ。
- ・ 現状東京と札幌は同じような街並みである。例えば、大通公園に新幹線をタッチさせたり、日本最大のパティシエ学校を誘致するなど、札幌の強みを強調する大胆な発想も必要ではないか。

<将来の札幌駅周辺地区について>

- ・ 20、50年後の北海道や札幌の必要性は、現在の延長線上にない可能性がある。時代の変化を踏まえた検討が求められる。例えば、将来北海道は食糧基地になっているかもしれない。
- ・ 都心居住を推進するための装置が必要である。住居機能だけでなく、近隣の住居地区とのネットワーク化も重要である。
- ・ 民間企業が国際的な競争に打ち勝つために、北海道大学の教育と研究の機能をフル活用すべきである。
- ・ 「駅」は映画に代表されるようにシンボルイメージの強い一面もある。イメージ作りも必要ではないか。
- ・ 札幌駅周辺地区は、土地利用の自由度が残されており、商業者の連携も図りやすい環境にある。札幌駅周辺地区がモデル的にエリアマネジメントを推進して、先行事例を都心全体に広げてはどうか。
- ・ 今後、世の中はよりスピーディになると考えられる。限られた時間の中で、求められるサービス（移動含め）を提供する必要がある。その拠点は札幌駅である。

- ・ ホテルを含め、富裕層へのサービスを提供できるのは道内では札幌のみではないか。そのためには、札幌での滞在日数を増やすことが重要であり、札幌から釧路や稚内へ遊びに行っても日帰りできるようなインフラ整備を進める必要がある。
- ・ 札幌駅にも金沢駅のように文化を感じられるシンボリックな空間が必要ではないか。

市民アンケートの実施結果

(1) 趣旨

札幌駅交流拠点再整備構想の検討にあたり、一般的な市民意見の傾向を把握するためにアンケート調査を行った。設問は主に将来（おおそ20年後）の札幌駅周辺地区に望む機能やイメージに関する内容である。

(2) 主な設問

訪問頻度、交通手段、訪問の目的

重視すべき機能

（20年後を見据えて）

札幌市の顔やイメージを高めるために必要なこと

自由意見

回答者属性

札幌駅周辺地区のおおよその位置



(3) 調査対象

アンケート配布対象者は、全札幌市民から無作為抽出された2,000人

(4) 調査方法など

調査期間：平成22年1月8日発送

回収締め切り2月20日（消印有効）

調査方法：調査票の郵送

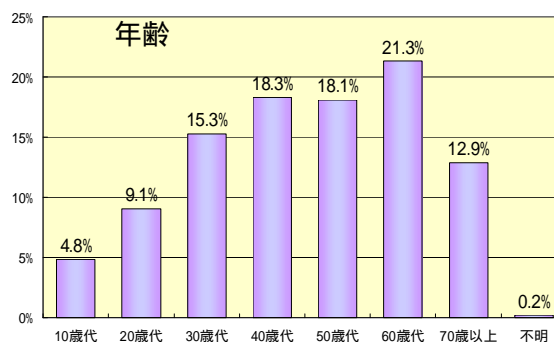
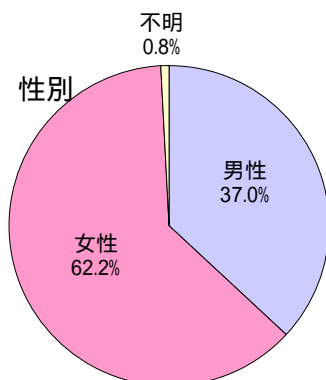
回収：郵送により回収

発送部数：2,000部

回収数：498人

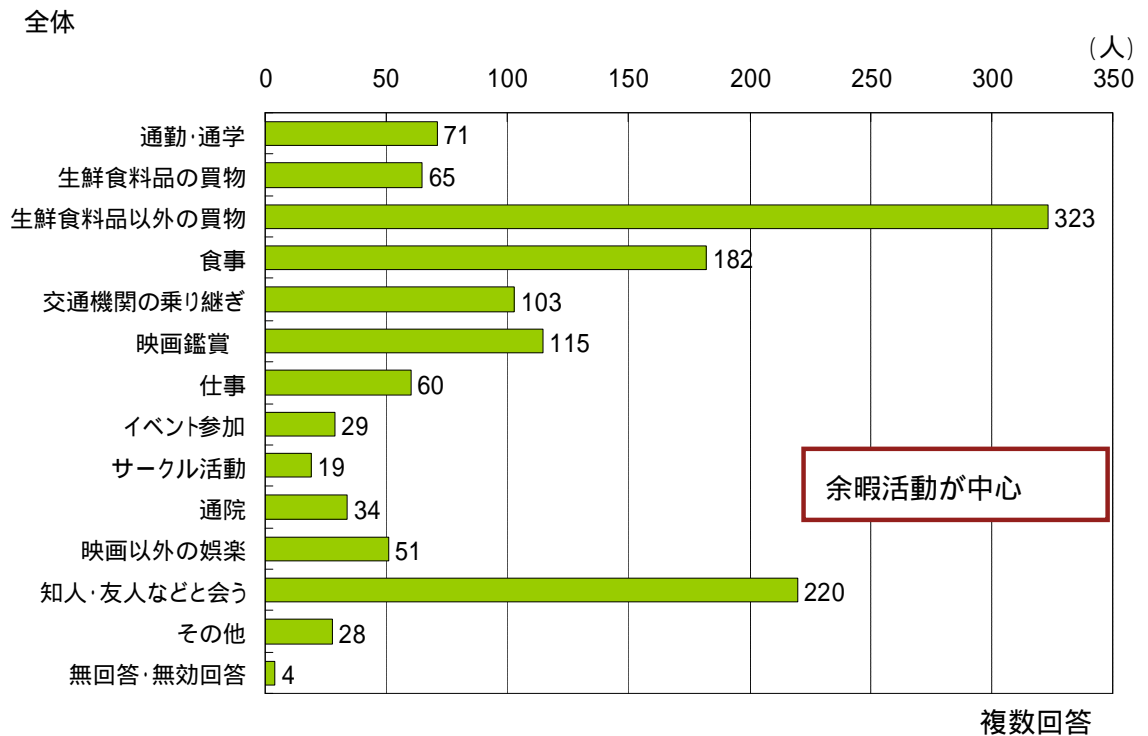
回収率：約24.9%

(5) 回答者の属性

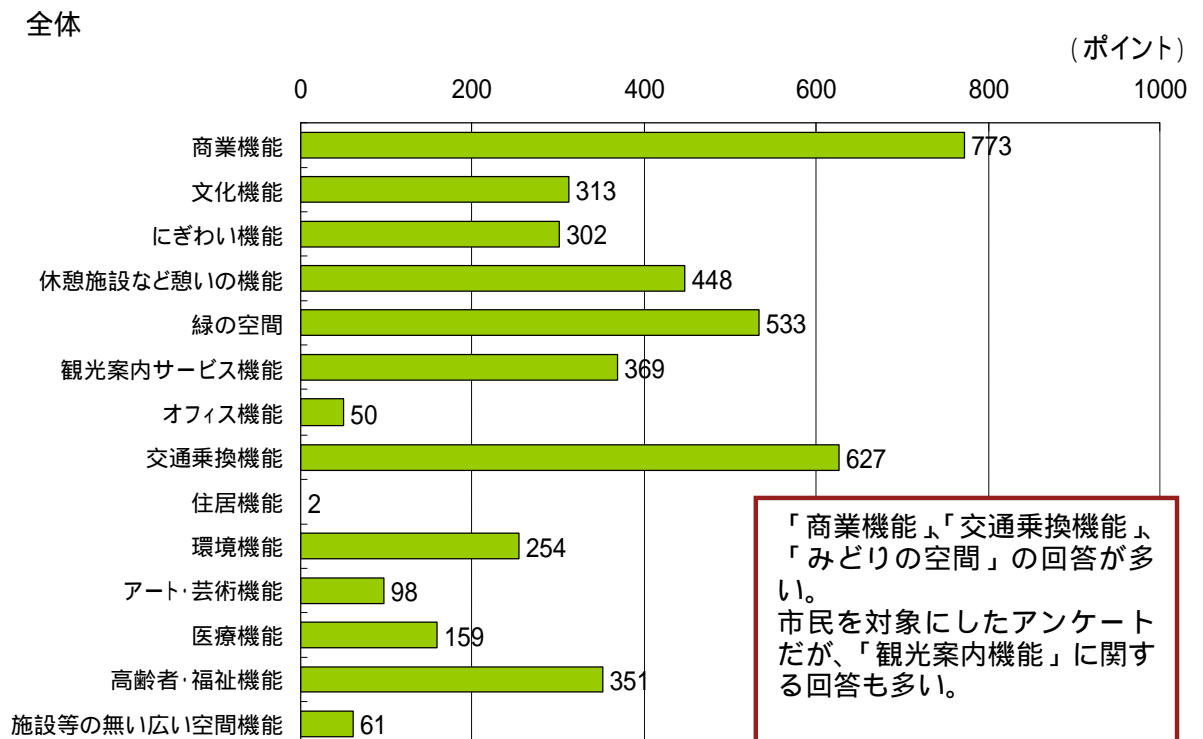


(6) 回答結果

Q1：札幌駅周辺地区に訪れる目的は何か

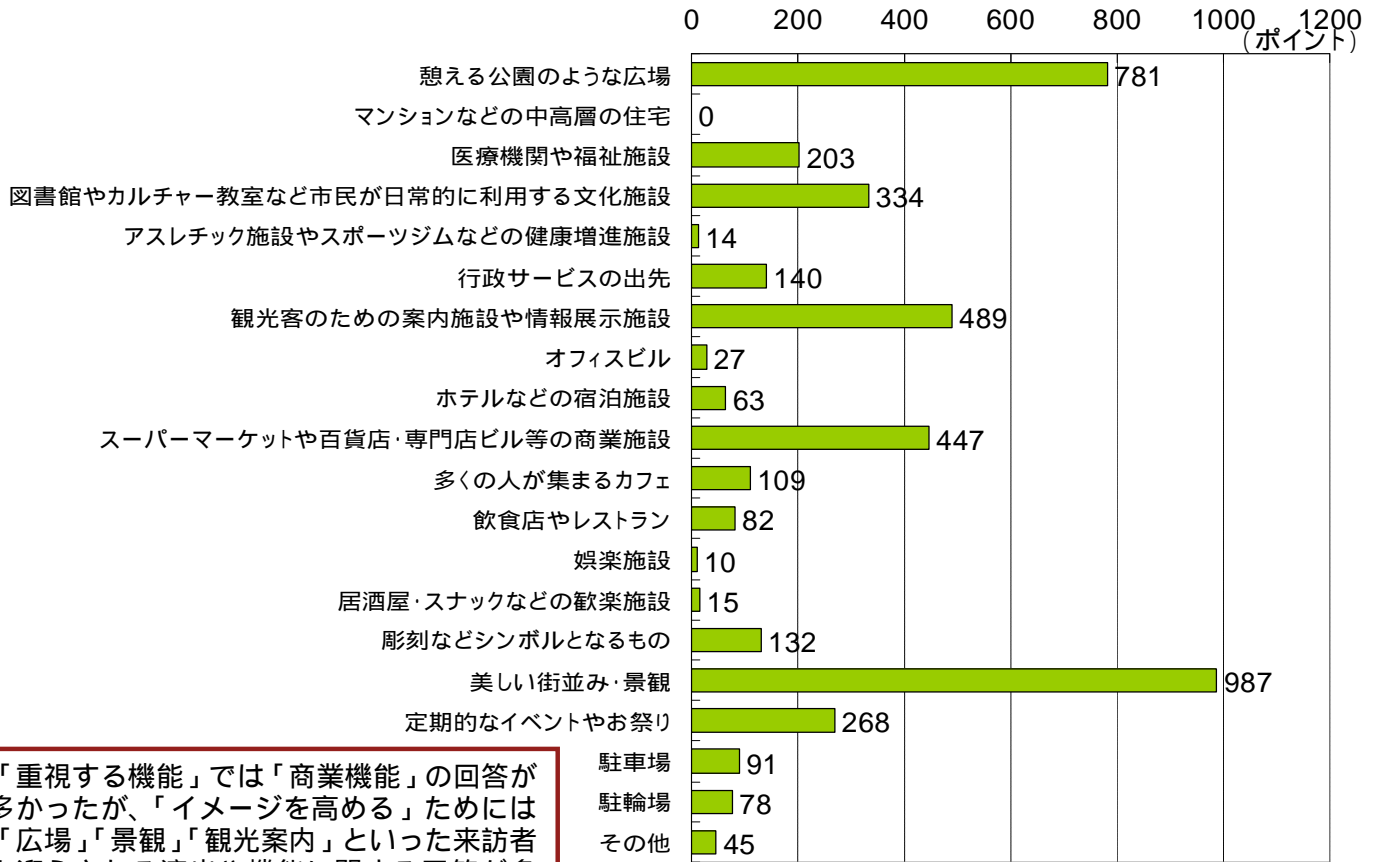


Q2：20年後を見据えた場合、重視すべき機能は何か



3つ回答、1位を5点、2位を3点、3位を1点に換算

Q3：札幌の顔・シンボルとしてイメージを高めるために必要なもの

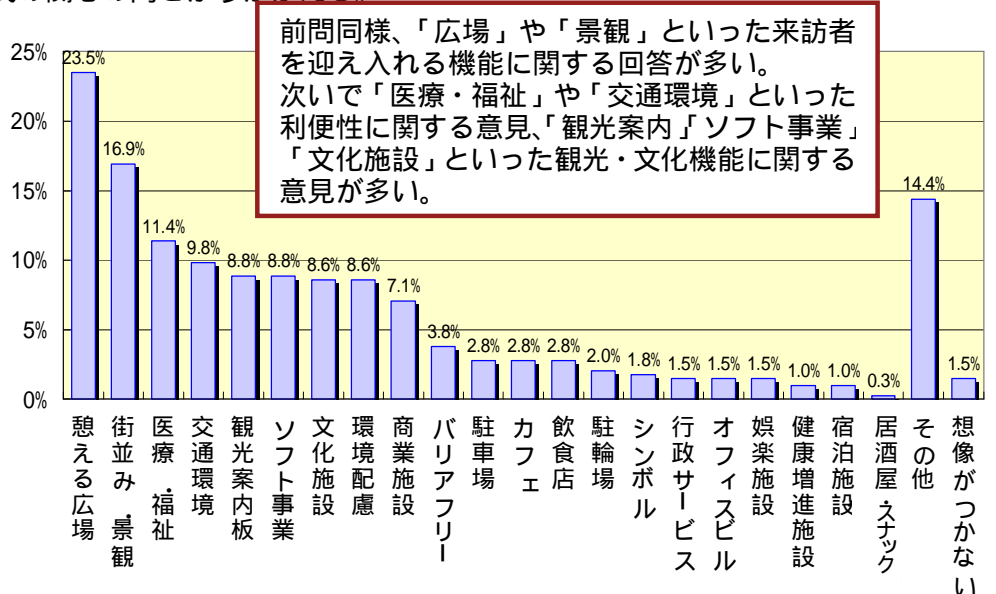


3つ回答、1位を5点、2位を3点、3位を1点に換算

「重視する機能」では「商業機能」の回答が多かったが、「イメージを高める」ためには「広場」「景観」「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能に関する回答が多い。
 ここでも普段市民が利用する機会の少ない「観光機能」に対する関心が比較的高い。

Q4：20年後の札幌駅周辺のまちづくりについて（自由回答）

自由回答の回答者数が498人中396人（79.5%）と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。



自由回答の内容から各種キーワードを抽出してポイント化

前問同様、「広場」や「景観」といった来訪者を迎え入れる機能に関する回答が多い。
 次いで「医療・福祉」や「交通環境」といった利便性に関する意見、「観光案内」「ソフト事業」「文化施設」といった観光・文化機能に関する意見が多い。

(7) アンケート結果の考察

「重視すべき機能」に対する回答から、市民の多くは「商業機能」や「交通乗換機能」などの日常的な機能を重視していることがわかる。

その一方で、札幌駅周辺地区の「イメージを高める」ためには、「広場」、「景観」、「観光案内」といった来訪者を迎え入れる演出や機能を必要とする意見が多い。自由回答では、来訪者を迎え入れる機能に関する回答が最も多く、次いで利便性に関する意見、観光・文化機能に関する意見が多い。

「重視すべきもの」、「イメージを高めるために必要なもの」、「自由回答」の回答結果から特徴的な内容として、普段市民が利用する機会の少ない観光案内・情報展示施設などの「観光機能」に関する回答が比較的多いことが挙げられる。札幌市民にとっての観光に対する重要性・関心が高まってきていることがわかる。

本調査はアンケート票の2,000人に郵送による調査であったが回答者数が498人(回答率24.5%)と4人に1人が返送により回答している。さらに、設問「自由回答」の記載者数が全回答者498人のうち、396人(記載率79.5%)と非常に高いことから、札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さがうかがえる。

本調査からわかった「札幌駅周辺地区の将来に対する市民の関心の高さ」は、これまで札幌市が市政情報を積極的に提供して、市民の理解と関心を高めるために努めてきた結果が反映されているものと考えられる。

札幌市の情報公開度は「第12回情報公開度ランキング政令市総合ランキング(2007年度)」で全国3位、「第11回情報公開度ランキング政令市総合ランキング(2006年度)」で全国1位となっている(全国市民オンブズマン連絡会議発表)。

市民検討会の開催結果

(1) 市民検討会の考え方

市民検討会の目的

情報共有を行った上で一般的な市民意見の傾向を把握することが目的。

札幌駅交流拠点は多くの人々が行き交うエリアである。そこで市民が札幌駅周辺地区にどのような期待を持っているか一般的な傾向を把握するため、市民検討会を開催した。

「札幌駅交流拠点再整備構想案」では、北海道新幹線の札幌駅乗入れや路面電車の延伸、北5条西1丁目街区の土地利用など不確定要素が多く、それらが複雑に関連していることから、市民に対して直接情報を提供して質疑応答などを行いながら、市民と情報共有を進めることが効果的であると考えられる。加えて本構想はおおよそ20年後を想定していることから、市民参加では将来を想像しながらアイデアや意見を出してもらうことも必要であるため、ワークショップ形式での検討が効果的である。

参加者の選定

無作為抽出により、30名の市民が参加。

市民検討会は、一般的な市民傾向を把握することが目的である。そのため、市民検討会の参加者については、性別や年齢、住まいなどバランスのとれた市民が参加する形式とした。具体的には、無作為抽出により選出された18歳以上の市民2,000名へ参加を呼びかけ、参加承諾をした127名の中から年齢、性別、住居区を考慮し抽選で30名の参加者を決定した。

グループ分けについて

各グループの参加者の年齢、地区、男女の割合を均等に。

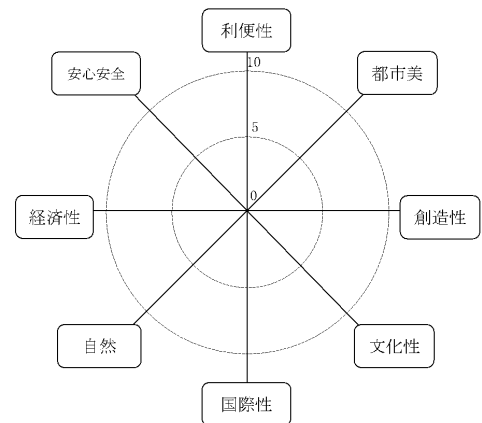
最終的に選出された30名を、年齢、居住地区、男女をバランス良く均等にグループ分けすることで、多様な価値観を共有し、様々な意見を引き出せる環境とした。

(2) 市民検討会の開催概要

第1回市民検討会の開催概要

- ✓ 開催日時 平成22年2月13日(土)
- ✓ 場所 札幌市役所6階会議室
- ✓ 参加者数 27名
- ✓ 情報提供
「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の目的と位置づけ
社会的潮流について
札幌駅交流拠点の経緯
札幌都心の現状
都心まちづくり戦略の考え方
新幹線の延伸について
札幌市のポジション(世界、日本、北海道の視点)
- ✓ ディスカッションのテーマ
札幌駅周辺の残したいもの
20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿

さっぽろ・都市のイメージ評価シート
市民意見を評価シートで類型化して意見傾向を把握した。



第2回市民検討会の開催概要



- ✓ 開催日時 平成22年2月21日(日)
- ✓ 場所 札幌市役所6階会議室
- ✓ 参加者数 27名
- ✓ 情報提供
第1回市民検討会の結果概要
市民アンケート調査結果の概要
世界の都市事例(世界都市、創造都市)
世界の都市事情(産業転換、郊外化、縮小都市など)
- ✓ ディスカッションのテーマ
20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿(主に自然、創造性、文化性、国際性)

第1回市民検討会での結果を踏まえて、ディスカッションのテーマを設定



(3) 第1回市民検討会の結果

プログラム

10:00	主催者あいさつ(5分)	日時:2月13日(土) 場所:札幌市役所6階会議室 参加者:27名
10:05	オリエンテーション(15分) ・スタッフ紹介、スケジュール、プログラム説明	
10:20	評価シート等記入(10分) ・参加者全員に「さっぽろの都市イメージ」について8つの項目で評価してもらい、テーブル毎にまとめた。	
10:30	情報提供その1(60分) ・「札幌駅交流拠点再整備構想案」策定の目的と位置づけ ・社会的潮流について ・札幌駅交流拠点の経緯 ・札幌都心の現状 ・都心まちづくり戦略の考え方 ・新幹線の延伸について	
11:30	ウォーミングアップ(30分) ・評価シートのまとめ	
12:00	昼食(60分)	
13:00	情報提供その2(30分) ・新幹線の延伸について ・札幌市のポジション(世界、日本、北海道の視点)	
13:30	午後の進め方説明(5分)	
13:35	テーブルディスカッション(55分) ・20年後も残したいものとおあるべき姿について、テーブルディスカッションを行い、各テーブルごとに3つの短冊にまとめた。	
14:30	まとめ発表(30分)	
15:00	終了	

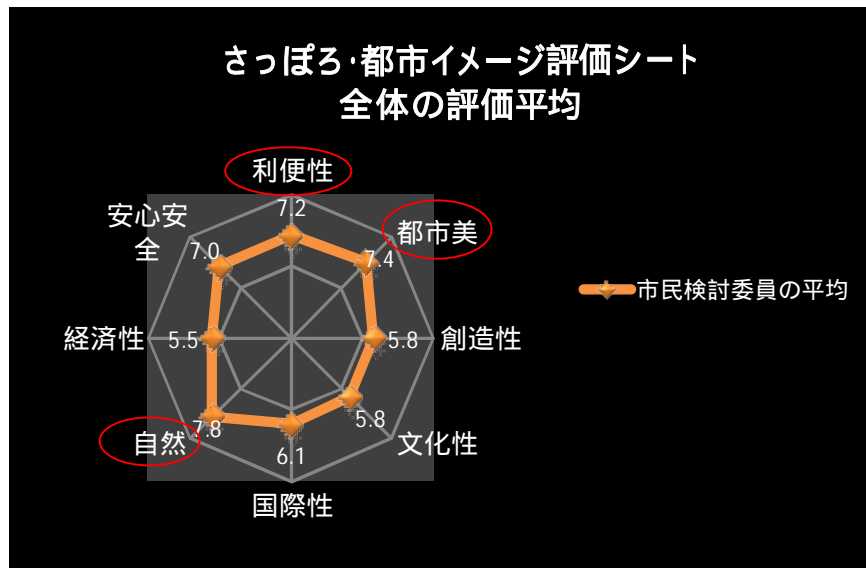
さっぽろ・都市イメージ評価

下図の評価シートは、参加者への情報提供や議論を行う前に、参加者が現在感じている札幌都心のイメージについて10段階で評価した結果である。なお、評価の数値は、参加者全員の評価点数を平均化したものである。

【結果】

- ・さっぽろ・都市のイメージで、最も評価が高かった項目は「自然」であった。次いで、「都市美」「利便性」と続いている。
- ・7.8ポイント獲得した「自然」では、大通り公園や中島公園、さっぽろらしい街路樹など、都心の中にもさっぽろは自然が豊かであるというイメージを持っていることがわかる。次いで、「都市美」では、さっぽろの景観、街並み、札幌駅の外観などが評価され、今後も大事にしていきたいという意見が多かった。「利便性」については交通の便は良いというイメージであるが、今後は高齢者など、利用するいろいろな層にも使いやすくなりやすいものを求める意見が多くあげられた。
- ・また、イメージ評価が低かった項目として、「経済性」「創造性」「文化性」があげられた。具体的な意見内容は、今後の商業の活性化やさっぽろを思わせるイベントの発掘、あるいは文化施設の不足などがあげられた。

市民検討会のさっぽろの都心イメージ評価結果



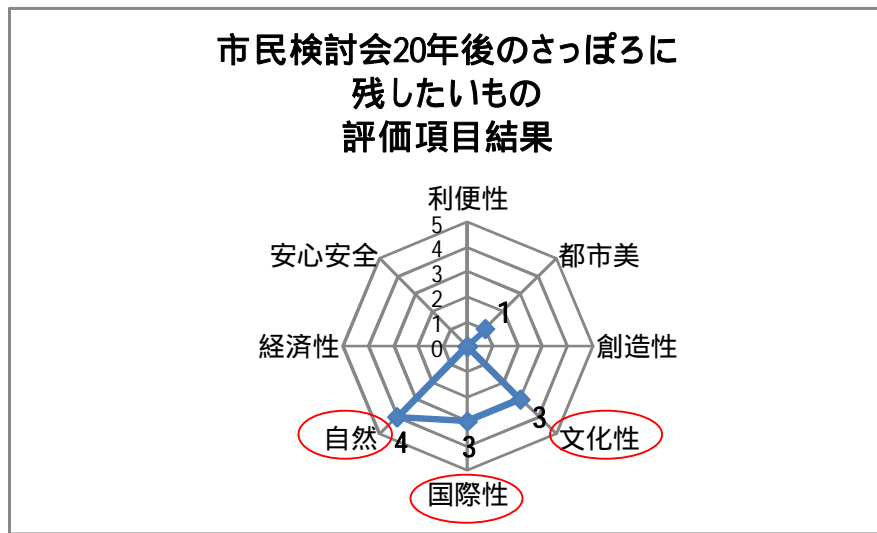
20年後のさっぽろに残したいもの

テーブルディスカッションによってまとめられた意見を「さっぽろ・都市イメージ評価」の8つの項目に分類し、残したいものの意見傾向を把握した。

【結果】

- ・20年後のさっぽろに残したいものの項目として、「自然」「国際性」「文化性」「都心美」の順となった。
- ・最も評価の高い「自然」では、緑や大通り公園、並木道や街路樹など、今あるさっぽろらしい自然を大切にしながら、20年後に向けてもっと増やしていきたいという意見が出た。続いて「国際性」では、雪まつりやよさこいなどの国際的なイベント、観光面での国際性の発展などがあがり、「文化性」では赤レンガなどの古い建物や木造建築物、札幌の歴史など、文化財やさっぽろ特有の施設の保存があげられた。
- ・イベントの国際的な発展といった意見は観光に対する意識の高さがうかがえる。これは、札幌市民が観光機能を重要であると認識しているとともに、観光客を迎え入れる意識が高まってきていることが感じ取れる。
- ・また、「都心美」では、さっぽろの街並み、ホワイトイルミネーションの街並み、札幌駅の外観などがあげられた。

市民検討会 20年後のさっぽろに残したいもの



20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿

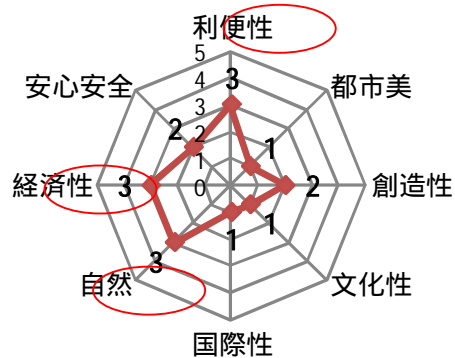
前項の「残したいもの」と同様に、テーブルディスカッションの結果を3つの短冊にとりまとめ、その意見を8つの項目に分類し、意見傾向を把握した。

【結果】

- ・20年後のあるべき姿で最も意見が多かったのが「自然」「経済性」「利便性」の順となった。
- ・主な内容は「自然」では、緑の休憩スペース、都市の中の自然などがあげられ、「経済性」では駅以外の商業の活性化、札幌駅と大通り駅の活性化の均等をはかる、「利便性」では、地下空間のネットワークの拡充、高齢者に優しいアクセス、自転車利用可能なまちなどが20年後のあるべき姿ではないかという意見であった。

市民検討会 20年後のさっぽろのあるべき姿

市民検討会20年後のさっぽろの あるべき姿とは？



考察

「20年後のさっぽろに残したいもの」は、「自然」「国際性」「文化性」「都市美」という結果となり、「20年後のさっぽろのあるべき姿」としては「自然」「利便性」「創造性」「経済性」「安心安全」を意識している結果となった。

「自然」に関しては、「20年後に残したいもの」「20年後のあるべき姿」の両方で意見が多く、自然に関する市民の意識の高さがうかがえる。

「文化性」「国際性」については、「20年後に残したいもの」として意見の多く、その意見内容は「雪まつりなどを国際的なイベント」や「既存施設の有効活用」など、将来に向けた発展に関する意見傾向であった。

「創造性」についても、「20年後のあるべき姿」として「札幌独自のイベントを魅力的に」との意見があり、札幌の独自性を発展させたいという意識が見られる。

逆に「利便性」「都市美」「経済性」「安心安全」については、「20年後のあるべき姿」で意見があがったが、その意見内容は「バリアフリー」「交通結節点機能の強化」といった専門的見地からの解決が必要なことや、「既存の古い建物を残す」「既に札幌駅周辺の商業集積で十分便利」など現在ある機能をそのまま残したい、あるいは、現状で満足している、といった意見傾向であった。

以上の結果から、最も意見の多かった「自然」と、将来に向けて発展させていきたい機能である「文化性」「国際性」「創造性」について検討について深度化が必要であると考えた。

意見傾向を整理した結果

将来発展させたい機能

20年後のさっぽろに残したいもの								
グループ	利便性	都市美	創造性	文化性	国際性	自然	経済性	安心安全
A								
B								
C								
D								
E								
合計	0	1	0	3	3	4	0	0

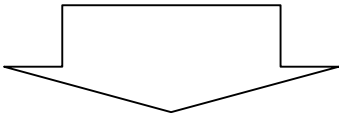
20年後のさっぽろのあるべき姿								
グループ	利便性	都市美	創造性	文化性	国際性	自然	経済性	安心安全
A								
B								
C								
D								
E								
合計	3	1	2	1	1	3	3	2

2つの合計	3	2	2	4	4	7	3	2
-------	---	---	---	---	---	---	---	---

「残したいもの」「あるべき姿」両方で意見の多い機能

現在のものを残したい、現状で満足している機能

専門的な知見から課題の解決が必要な機能



keyword

自然 国際性 文化性 創造性

上記の4つの項目を重点的に次回、第2回市民検討会を進めていくこととした。

(4) 第 2 回市民検討会
プログラム

10:00	プログラムについて(5分)
10:05	前回のふりかえり(10分)
10:15	情報提供その3(45分) <ul style="list-style-type: none">・ 第 1 回市民検討会の結果概要・ 市民アンケート調査結果の概要・ 世界の都市事例(世界都市、創造都市)・ 世界の都市事情(産業転換、郊外化、縮小都市など)
11:00	将来のあり方について意見交換:午前の部(60分) <ul style="list-style-type: none">・ 都心のマップをみながら(札幌駅周辺の資源探し)・ 20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿 (主に自然、創造性、文化性、国際性について)
12:00	昼食(60分)
13:00	将来のあり方について意見交換:午後の部(75分) <ul style="list-style-type: none">・ 20年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿 (主に自然、創造性、文化性、国際性について)
14:15	まとめ発表(45分) <ul style="list-style-type: none">・ 1グループ5分*5(25分)・ どれが優先か:シール投票(10分)・ まとめ(10分)
15:00	終了

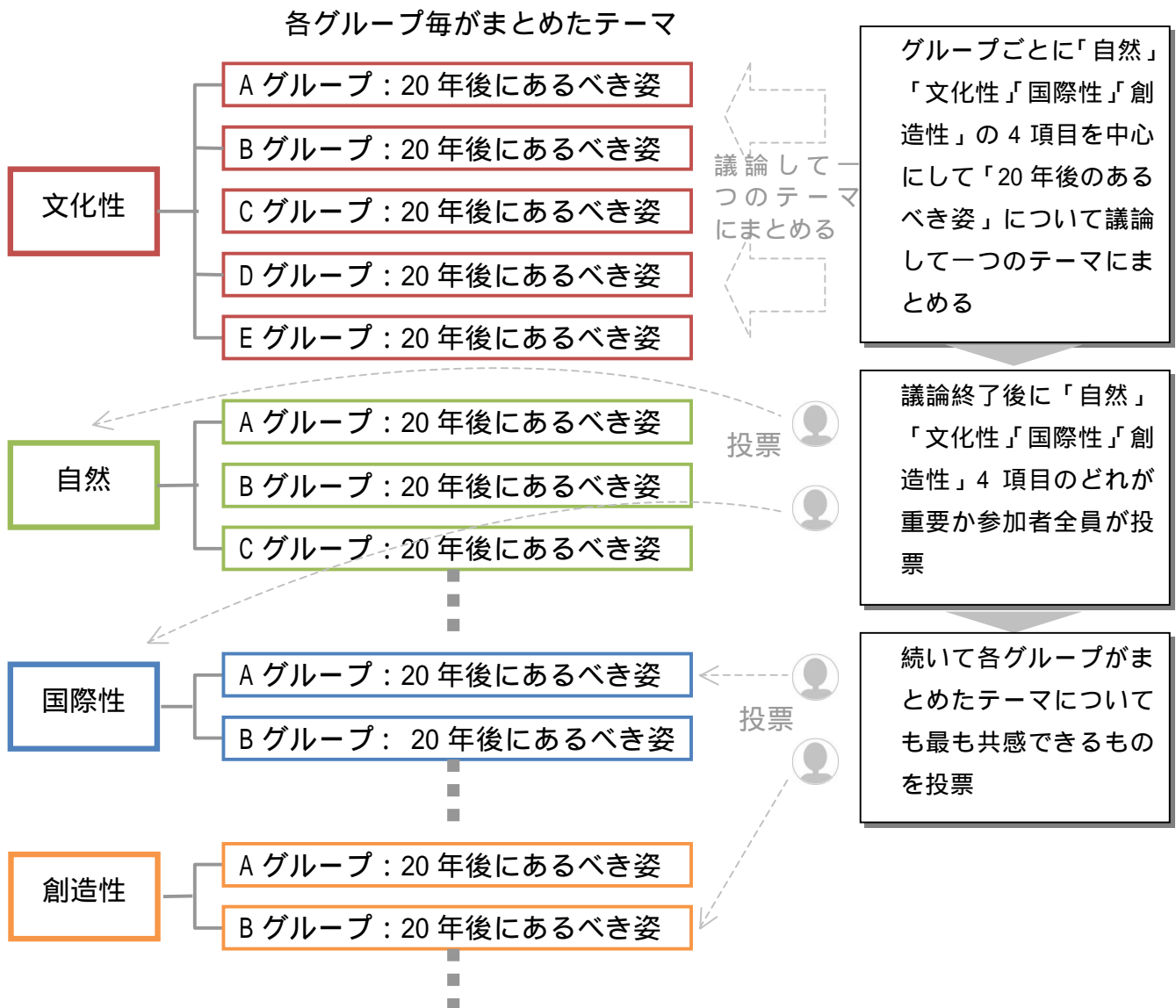
日時:2月21日(日)
場所:札幌市役所6階会議室
参加者:27名



テーブルディスカッションの結果概要

テーブルディスカッションでは、第1回市民検討会の結果を踏まえて、「自然」「文化性」「国際性」「創造性」の4項目について中心に議論を行った。意見の集約方法は、全部で5つの各グループ毎で話し合った結果を、上記4項目に対して20年後にあるべき姿として必要な考え方をそれぞれまとめることとした。

さらに、どの項目のどのような考え方が重要視されているかについて把握するために、上記4項目と各グループでまとめた考え方に対して重要と思われる内容を参加者全員で投票を行った（結果は次頁参照）。



第2回プランニングセル 市民検討会のテーブルディスカッション結果

イメージ評価項目		グループごとの20年後の札幌駅と周辺地区の あるべき姿		グループ
項目	投票結果	将来(20年後)のあり方	投票結果	
自然	8ポイント	「動植物と触れ合える緑の憩える広場」	8ポイント	A
		「緑を増やす夢ある自由な広場」	6ポイント	D
		「札幌(手軽に楽しめる老若男女)の自然をまずは市民が知る(親しむ)ことによって、観光客のPRとアクセスを充実させる。」	6ポイント	E
		「既存の施設を活用し、都心の緑と周辺の緑との調和」	4ポイント	B
		「自然をより豊かにしていこう!(緑・雪・水)」	2ポイント	C
文化性	9ポイント	「地産地消による北海道ならではの食文化の発信」 一次産業の復活、既存のイベントを活かした食の祭典、継続が伝統になる	11ポイント	E
		「札幌らしさを守りながらも歴史や文化をつくっていく」 「新しく「トライ」できる「人」「モノ」をつくれるまち	11ポイント	C
		「札幌の人々の気風を活かし文化性を深める」	2ポイント	A
		「北海道の地域文化(食文化、伝統文化)の発信基地をつくらう」	5ポイント	D
		「独自の文化、特徴を活かし発展させる」	0ポイント	B
国際性	5ポイント	「交流の場、発信の場をつくる」 「札幌ブランドの国際化」	9ポイント	C
		「札幌のシンボルとなる情報発信の場(北海道をPRする場)」	5ポイント	A
		「市が主体となり、国際的な情報発信と交流の場を創出」	0ポイント	B
		「自分たちの足もとを固めてからの国際性」	8ポイント	E
		「地元の人と海外の人の相互理解の場をつくらう」	5ポイント	D

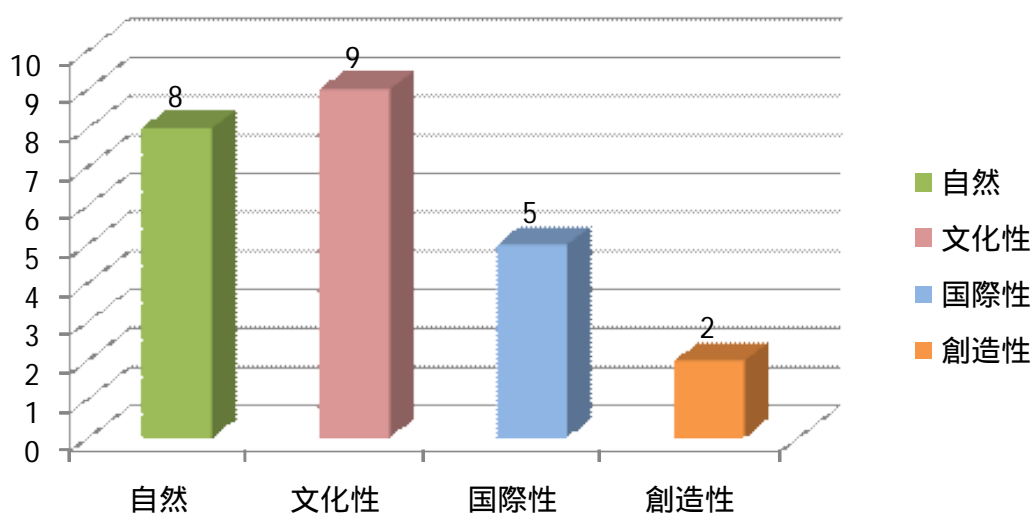
第2回プランニングセル 市民検討会のテーブルディスカッション結果

イメージ評価項目		グループごとの20年後の札幌駅と周辺地区の あるべき姿		グループ
項目	投票結果	将来(20年後)のあり方	投票結果	
創造性	2ポイント	「『札幌発』をつくるための環境づくり」(学ぶ場、発表の場)	10ポイント	C
		「常設の舞台(お笑いを含む)を鑑賞できる場がほしい」	1ポイント	D
		「若い芸術家を育てるシステムづくり」「既存の財産(施設を含む)の創造的有効活用」 「市、道、企業の力も借りた継続性、観光客を集める」	4ポイント	E
		「古いものと新しいものを融合し、市民が交流の場をもって創り出す」	7ポイント	B
		「食とアートが体感できる市民が参加できる場」	3ポイント	A
利便性	0ポイント	「交通手段の充実と明確化」	0ポイント	A

評価項目ごとのグループ評価と意見

4つのイメージ評価項目の中で、「20年後のさっぽろ駅周辺のあるべき姿」の重要項目は「文化性」となり、次いで「自然」という結果となった。

評価項目ごとの投票結果



テーマごとのグループ意見

グループ投票で獲得数の多かった意見をあげると以下ようになる。

文化性

『地産地消による北海道ならではの食文化の発信』
(一次産業の復活、既存のイベントを活かした食の祭典、継続が伝統になる)

『札幌らしさを守りながらも歴史や文化をつくっていく
新しく「トライ」できる「人」「モノ」をつくれるまち』

自然

『動植物と触れ合える緑の憩える広場』

国際性

『「交流の場、発信の場をつくる」
さっぽろブランドの国際化』

創造性

『札幌発をつくるための環境づくり』
(学ぶ場・発表の場)

多い

参加者の投票結果

少ない

(5) 市民検討会開催結果の考察

第 1 回・第 2 回市民検討会ともに最も重要視されていた都市機能は、「自然」であった。

第 1 回市民検討会の結果、将来発展させていきたい機能として「文化性」「国際性」「創造性」が挙げられた。

第 2 回市民検討会では、第 1 回市民検討会の結果をもとに、「自然」「文化性」「国際性」「創造性」について中心に検討を行った。

その結果、20 年後の札幌駅と周辺地区のあるべき姿として、「文化性」「自然」「国際性」「創造性」の順で重要度が高いとの結果が得られた。

「自然」については、市民の親しみと憩いの場として緑のある広場を望む意見に対して評価が高かった。

「文化性」については、一次産業の復活、食文化の発信、伝統的なイベントへの発展など、さっぽろらしさを守りながら新たな歴史や文化をつくっていくことが重要との意見傾向があった。

「国際性」については、札幌ブランドの国際化、市民と外国人の相互理解の場が必要との意見傾向であった。

「創造性」については、学ぶ場や発表の場といった環境づくりを進めて、市民の交流を促進すべきであるとの意見傾向が見られた。

全体の意見傾向としては、イベントの発展や札幌ブランドの国際化といった札幌を外に向けてアピールしたいという気持ちや、市民と外国人の相互理解や市民の交流を促進といった市外と市内の人の交流促進に関心があることがわかる。

市民検討会では、世界や日本全体といった広い視点から札幌駅と周辺地区を考えることに重点を置きプログラムを進めたため、市民からの意見は札幌駅周辺地区に限定されず、札幌都心全体を含めた議論であった。